

看護実践・キャリア 支援センター通信

2019年
4月

看護基礎教育 実習指導者の教育能力育成プログラム

Vol.16

1月11日（金）に、実習指導者研修を行い、臨床実習指導者46名と看護学科教員17名が参加しました。

この研修は、今年度の上級臨床指導者研修プログラムを受講している5名が運営し、看護教育の指導的立場にある方にお互いの課題を出し合うこと等を通して、役割・目標を再認識する機会としています。



話し合うことで、お互いの必要な情報を再確認

看護学科母性看護学五十嵐稔子教授の効果的な実習環境についての講義では、実習指導者と教員の分担・連携について考えるワークもあり、お互いの役割について再認識できました。



五十嵐
稔子先生



グループごとに情報連携について話し合った結果を報告

ワールドカフェでは、グループに分かれて看護学生の教育について自らの思いを語り合いました。普段話す機会のない双方の生の声を聞くことで、連絡の大切さや自らの課題に気付いたという意見が多く聞かれました。この関係性が、今後、看護学科の看護基礎教育の向上にいい影響をもたらしていくことと思われます。

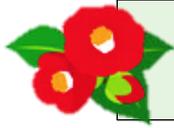
看護実践教育

対人援助の基礎知識・技術ベーシックコース修了

臨床実習指導者18名が、対人援助の基礎知識・技術研修のベーシックコース（講師：看護学科精神看護学の橋本颯子先生）を修了しました。講義では、「自己決定を考える」「自分に対して正直になる」「自分の幸福な人生を考える」をテーマに心の構造と機能や心の発達・成長について学習しま



した。演習では、粘土作品を作ることで相手の意図を汲み取ること、援助すること援助されることの体験をしました。時には見たくない自分自身の一面とも向き合うことで、より深い人間の意識に気づき、自分が関わっていく人への思いにつながられたようでした。



看護学科学生へのキャリアデザインプログラム ～C'mon baby 奈良医大♪～



2月27日(水)、本学の看護学科3年生に、奈良県立医科大学附属病院の魅力伝え、ひとりでも多く就職先として考えてもらう機会となるよう、～就活生へ思い届け！C'mon baby 奈良医大♪～を開催しました。

第1部では、「新人教育体制の紹介」「看護技術体験」「病棟見学ツアー」「看護の語り」の内容で研修を行いました。65名の学生が参加し、就職活動を考える上で、多くの学生が「看護の語り」を参考になったと評価していました。先輩看護師の実体験を聞いて、働くことのイメージを持つことができたことや、看護を行うことの楽しさや大変なことを知ることができたようです。

「病棟見学ツアー」では、実習では入ることがなかったスタッフの休憩場所や仮眠室などに行くことができ、学生からは貴重な体験ができたことが良かったとの声がありました。また、学生を迎えてくださるスタッフの皆さんの温かさを実感したようです。

第2部は、「高橋看護部長からキャリアデザインの説明」と「若手看護師とのグループディスカッション」の内容でした。高橋看護部長からは、奈良医大附属病院のキャリア発達についての詳しいお話をしていただきました。学生からは、今まであまり考えなかった自分のキャリアについて考えようと思うようになったことや、奈良医大のキャリア支援の良さを感じることができたとの声がありました。

若手看護師とのグループディスカッションでは、ケーキバイキングが設けられ、好きなケーキを食べながら、話を弾ませている様子でした。自分の興味関心のある病棟について話を聞くことができ、非常に満足できたようです。

この研修は初めての企画でしたが、就職活動に向けて非常に参考になったことや、奈良医大の魅力を改めて知るきっかけになったようです。「奈良医大に就職したいです！」と言ってくれた学生もいました。



手厚い看護教育システムを紹介



新人教育の一部を体験

看護部長からは看護師のキャリアデザインについての説明が



気になる部署の先輩ナースの話を聞く学生たち



地域貢献研修

明日から使える褥瘡予防・治療の知識と技術看護研修 2 回目



この場面でどんな保護材を選択するべきか

3月7日(土)、当院の皮膚・排泄ケア認定看護師西林直子氏と鈴木千明氏を講師に、演習を通じた具体的「臨床力」を身につけるための研修を行いました。前回の研修で定員を超過したため、2回目の研修です。

参加者は褥瘡の基礎的知識のある看護師のため、褥瘡発生要因に対するケア方法等、すぐに実践に活かせる内容を丁寧に教えていただけたと好評でした。

看護基礎教育

上級臨床指導者育成プログラム

平成30年度の上級臨床指導者育成プログラムのすべての研修が終了しました。今年度は、大西英子さん(NICU)、菊池理恵さん(E棟5階)、阪本芙美さん(A棟7階北)、仲野美和さん(D棟3階)、山本美弥さん(A棟7階北)の5名が受講されました。昨年5月から、プログラムが始まり、看護学科の講義・演習に入り、院内研修では看護管理研修や奈良県看護協会の「学生が成長する臨地実習のあり方」等の研修を受講されました。1月11日に開催した教育能力育成プログラムはこの受講生により企画・運営されました。企画の段階では、事前アンケートを考え、研修受講者のニーズをできるだけ把握し、実りある研修となるよう検討を重ね、運営までの打ち合わせも自主的に協力体制のもと進められました。



受講生が実習指導者研修の運営を

100名いる臨床実習指導者のリーダーとなり、看護学生やスタッフのロールモデルとなって頂きたいと思います。

上級臨床指導者育成プログラム・特定行為研修修了報告会

3月19日(火)、看護師特定行為修了生と今年度の上級指導者育成プログラムの受講生による報告会が開催され、看護部から70名が参加しました。特定行為研修については、急性期コース48%、在宅コース53%が研修内容に興味があると答え、院内にも徐々に周知されてきていることがわかります。上級臨床指導者育成プログラムの修了報告では看護基礎教育から臨床実習をつなぐ役割についてや、今後上級臨床指導者として実習指導者をサポートしながら学習者を巻き込む環境作りが必要であること等、多くの学びを発表されました。特定看護師、上級臨床指導者共に臨床でのご活躍を期待しています。



研修の成果を報告



特定行為研修閉講式

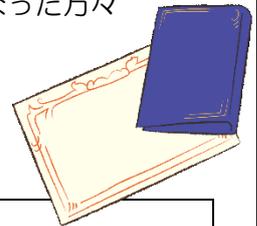


3月19日(火)、看護師特定行為研修の閉講式が行われ、急性期コース第3期生3名、在宅コース第1期生8名に修了証書が授与されました。

約半年の机上学習後に急性期コースは院内で、在宅コースは県内11施設で実習を行い、それぞれ苦勞しながらも乗り越えることができました。閉講式では、修了生から実習に同意をしてくださった患者様、研修中ご指導いただいた先生方、研修への参加に協力してくれた自部署のスタッフへの感謝の言葉が多く聞かれました。修了生がそれぞれの思いを胸に、働き方も含め多くの課題に取り組む姿を温かく見守り、今後のご活躍を期待したいと思います。



今年度修了生と研修でお世話になった方々



【急性期コース修了生より】

医学的な視点と看護的な視点の両方を持ち、患者・家族の状態をアセスメントする能力を高め、よりタイムリーかつ効率的に医療・看護を提供できるようにしていくことが、特定行為の理想であると考えています。研修は修了しましたが、今後も学び続ける姿勢を持ちながら、医師ではなく看護師であること、医療チームの一員であることを自覚して、患者アウトカム向上を目指して活動していきたいと思います。 C棟3階 小橋 郁美

【在宅コース修了生より】

特定行為研修を受講して、今までの看護に医学的視点が加わったことで、患者さんの全体像をより観察し、介入していく必要があるのだと再認識できました。「特定行為」という名称ではありますが、医行為を習得する研修だけではなく、自分の視点を見つめなおす研修と捉えて頂ければと思います。 放射線治療・核医学科・腫瘍センター 宮本 拓

今後のセンター事業

☆「特定行為研修 開講式」

日時:4月4日(木) 13:00~14:00

☆「第14回 奈良県立医科大学 循環器内科 ICLSコース」

日時:5月19日(日) 9:00~16:30

☆メンタルヘルス研修 「折れない心をつくる研修 ~心が軽くなる気分転換のコツ~

日時:6月8日(土) 10:00~12:20

☆「認知症予防及び認知症を持つ患者への対応力向上研修」

日時:6月22日(土) 10:00~15:00

